

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版
■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	(仮称)ラ・ムー新潟東区店新築工事	
建設地	新潟県新潟市東区豊1丁目228ほか39筆	
用途地域	工業地域	
建物用途	物販店	
竣工年	2025年8月 竣工	
敷地面積	9,454.36 m ²	
建築面積	2,815.68 m ²	
延床面積	2,746.36 m ²	
階数	地上1F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2024年11月1日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{42.6}{39.8} = 1.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	平均スコア 3.0		バリアフリー計画 維持管理 設備の更新性	Q2.1.1.3 Q2.1.3 Q2.3.3	3.0 3.0 3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	平均スコア 2.8		耐震・免震・制震・制振 信頼性	Q2.2.1 Q2.2.4	3.0 2.6
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	平均スコア 2.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 4.0		建物外皮の熱負荷抑制 自然エネルギー利用	LR1.1 LR1.2	5.0 3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 2.3		節水 躯体材料以外でのリサイクル材の使用 部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.1.1 LR2.2.4 LR2.2.6	3.0 1.0 3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	平均スコア 1.5		生物環境の保全と創出 敷地内温熱環境の向上	Q3.1 Q3.3.2	1.0 2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	平均スコア 3.0		まちなみ・景観への配慮 地域性への配慮、快適性の向上	Q3.2 Q3.3.1	3.0 3.0

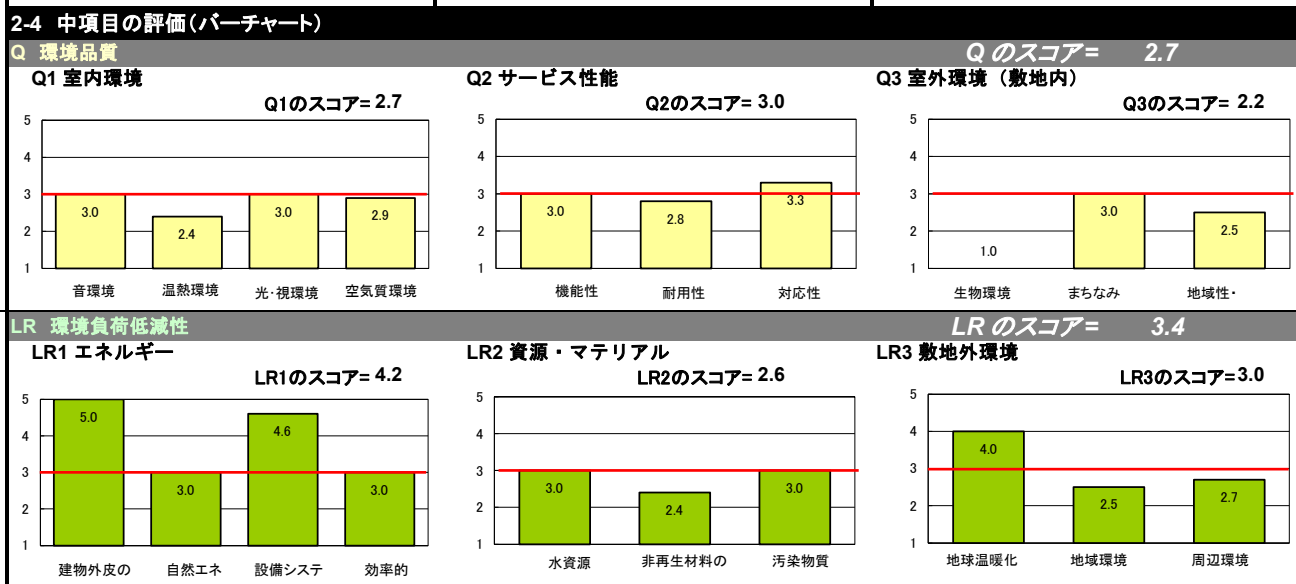
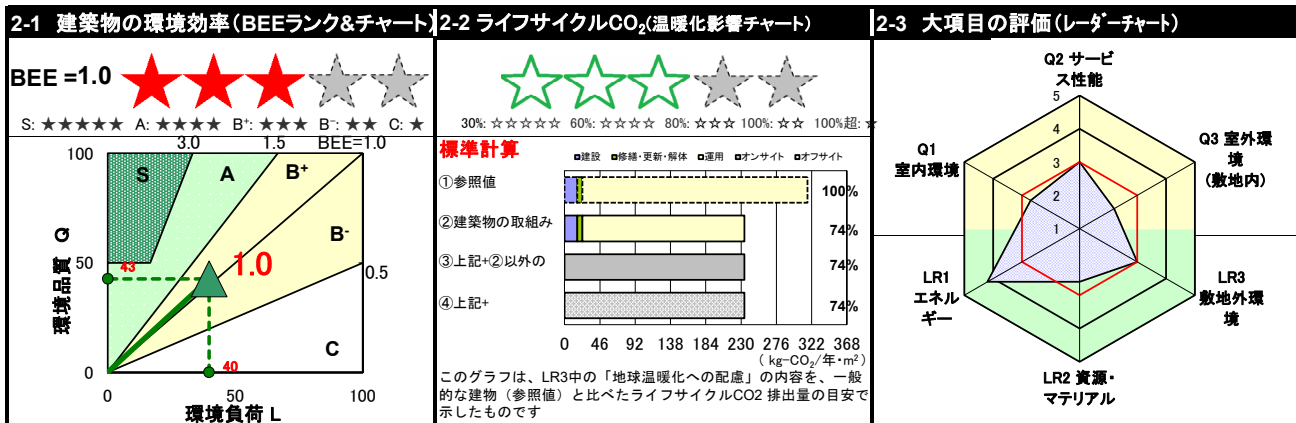
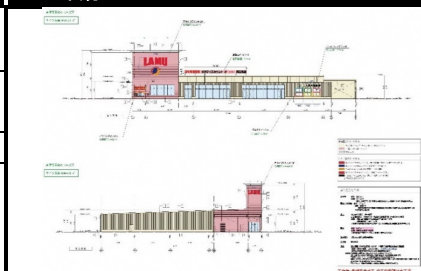
4. 新潟市の重点項目の配慮事項

新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。

植栽により良好な環境配慮に努めた。

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築) 2016年版 I 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ラ・ムー新潟東区店新築工事	階数	地上1F
建設地	新潟県新潟市東区豊1丁目228(ほか39筆)	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	700 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年8月 竣工	評価の実施日	2024年11月1日
敷地面積	9,454 m ²	作成者	笹原一馬
建築面積	2,816 m ²	確認日	2024年11月20日
延床面積	2,746 m ²	確認者	伊藤公



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
建物を出来る限り前面道路からセットバックした計画とした		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
下地及び仕上げ材ともにシックハウス規制対象品F★★★★品を採用した	売場については天井高さを3990mm確保した	植栽により良好な景観形成に努めた
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
出来る限りLED照明を採用した	LGS下地を採用することにより、躯体と仕上げ材を分別可能とした	自転車置場等を適切に計画することにより、交通負荷抑制に努めた

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される